

## 初級日本語学習と対話能力向上目的のアウトプット（産出）の機会について

池田 佳子

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

ikedada@lang.nagoya-u.ac.jp

### 1. はじめに

JFL 環境において、教室談話は学習者にとって唯一日本語に直接触れる（コミュニケーション媒体として使用する）機会であることが多い。本稿ではその教室談話における「アウトプット（産出）」の可能性について考察する。微視的な分析法である CA（会話分析）を援用し、教室談話の実態を明らかにする。現状把握を行うことで、今後の海外日本語教育のカリキュラム改善に役立てたいと考えている。

### 2. 理論背景：第二言語習得（SLA）モデルの中の「アウトプット」

#### 2.1 アウトプット仮説(Swain, 1985 他)

理解可能なインプットに合わせて、理解可能なアウトプット (comprehensible output) が言語習得にとって必要である。

理解可能なアウトプット=正確 (precise) で一貫性 (coherent) がある、適切な (appropriate) 表出と定義する。

強制アウトプット pushed output が言語習得には不可欠という立場を取る。

#### 2.2 アウトプットが促進するもの(Swain, 1993; 1995)

練習により流暢さを促進する (enhancement of fluency)

気づきを促進する (the noticing function)

仮説を立て、検証する (the hypothesis formulation and testing function)

メタ的語りを行う (the metalinguistic function)

#### 2.3 アウトプットの貢献：

##### Communicative Competence コミュニカティブ・コンピテンス

Hymes (1971) Canal and Swain (1980)

- 1) 文法能力 ( grammatical competence )
- 2) 社会言語能力 ( socio-linguistic competence )
- 3) 談話能力 ( discourse competence )
- 4) 方略的能力 ( strategic competence )

##### Conversation/Interactional Competence 会話 / 相互行為・コンピテンス

Kramch (1986) Young (1999) 他

### 3. 考察：教室談話とアウトプット

#### 3.1 パターン化された構造内でのアウトプット：I R E (Sinclair & Coulthard, 1975)

Initiation → Response → Evaluation (Follow-up) のパターン内では、学習者のアウトプットの機会は R (返答) のみに限定されてしまう。

例 1 (Ohta1999 から抜粋<sup>1</sup>)

着目点 : L3 L6

IRF の I と F の部分が教師によって管理されている。

1. T: あのミスさんは(.)どんな車を持っていますか?
2. S: あ車持っていません。
3. T: あそうですか? 残念ですね.. ←
4. キムさんはどんな車を持っていますか?
5. K: いい車((笑いながら))
6. T: ああいい車を持っていますか? ((クラス全員が笑う)) いいですね.. ←

### 3.2 パターン化された構造内でのアウトプット : 「合唱練習」

Conjoined chorus productions (Ikeda, 2007; Ko, 2005, 2007)

例 2 (Ikeda, 2007<sup>2</sup>から抜粋) カナダの大学における初級日本語教室<sup>3</sup>

- 1 S5: =kon[getsu
- 2 Ss: [kongetsu
- 3 T: [kongetsu:: >° desu °<
- 4 hai(.) kongetsu:
- 5 \*(.5)\*
- 6→ \*((T 'bracket' gesture))\*
- 7 Ss: n[o:
- 8 T: [no
- 9→ \*(.5)\*
- 10→ \*((pointing to the date '24<sup>th</sup>'))\*
- 11 SS: [nijuu yokka
- 12 T: [° nijuu yokka °

### 合唱練習と SLA : 学習プロセスが観察可能となっている例: 仮説構築

例 3 (Ikeda, 2007 から抜粋)

着目点 : L6、訂正フィードバック L8-9、アップテイク (自己修正) L10、応用 L13

- 1 T: kongetsu wa ↓ nan gatsu desu ka?
- 2 S2: ju:[gatsu desu ]

<sup>1</sup> アメリカ合衆国のある大学における通年の初級日本語のクラス。

<sup>2</sup> カナダのある大学における通年の初級日本語のクラス。

<sup>3</sup> 例 2 と 3 は、合唱部分の重なりが一拍の途中で起っているものがあるため、ローマ字表記での文字おこし及び提示を行った。

3 SS: [Juugatsu desu ]  
 4 T: [>° juu ° gatsu< desu ] hai jaa .h(.) jyuuchigatsu wa?  
 5 (1)  
 6 → S3: raishuu=  
 7 → SS: =rai[: ]  
 8 → T: [ra]i: =  
 9 = ge[:tsu ]  
 10→ SS/S3: [>getsu<]  
 11 T: desu ne hai jaa juu ↑ nigatsu wa?  
 12 (1)  
 13 SS/S3: sa[raigetsu]  
 14 T: [saraiget]su desu ne: (.) hai

### 3.3 非パターン化された強制アウトプット：グループ・ディスカッション

「反対意見を述べる」という言語行為：不同意の標示 > 実証例

教師対学生という対話の関係以外の設定で行うほうが練習できる言語行為の一つ

着目点: L6→L9, L13→L16

#### 例 4

1 Tami: カナダでは (・) みんな英語を話さなければならないと  
 2 思いますか?  
 3 J: .hh はいはい. uhm: みんなカナダ人 uh: ( )  
 4 を話さなければ: なら: ならないと思います.  
 5 T: ah: そう=  
 6 Th: =そ- 英語 英語?  
 7 T: 英語.  
 8 J: 英語を:  
 9 Th: でも(.) カ-カナダでは (.) uh: に: ((gesture))  
 10 B: ((nods to Th)) (.5) に ことば?  
 11 Th: に: ことば (.) フランス, uh: フランスと: 英語. フランス語と  
 12 英語をですか?  
 13 T: hmmm ↑ そうですね.: uhm 私は(.) 中国人です. (.5)そして (.)  
 14 うち: で (.)  
 15 J: hmm  
 16 T: 中国[語を話し(h)ます.hh  
 [ . . . ]  
 56 J: uh: もちろんカナダ人は: uh: (1) いろいろな: (1)  
 57 ことば(2) できますよ.  
 58 B: ((nods)) あそうです . か .  
 59 J: もちろ(h)ん もちろ(h)ん

#### 4. さいごに

本稿では、初級日本語学習の教室場面における、アウトプットの機会とその貢献について考察を加えた。今回対象となったデータは全て英語圏における JFL 教室の談話である

ため、JSL 環境や英語圏以外の JFL 環境において同様のアウトプット場面が予想されるかどうかは今後の課題として残されている。また、本稿の考察は、今後の教室談話のあり方を改善していく上でも参考になるのではないかと思われる。第二言語習得理論にもとづく「アウトプット」の有効性について理解しておくことで、多様な対話の機会を盛り込んだ授業やカリキュラムを初級レベルから作成し実践していくことができるようになるだろう。また、試みたタスクについて上記で述べたようなコミュニケーション・コンピテンス、そしてインターアクション・コンピテンスの向上が期待できるものであったかどうかを評価する手段としても役立つのではないだろうか。

## 5. 参考文献

- Canale, M., & Swain, M. (1980). Theoretical bases of communicative approaches to second language teaching and testing. *Applied Linguistics*, 1, 1-47.
- Hymes, D. H. (1974). *Foundations in sociolinguistics: An ethnographic approach*. Philadelphia: University of Pennsylvania Press.
- Kramsch, C. (1986). From language proficiency to interactional competence. *Modern Language Journal*, 70, 366-372.
- Ohta, A.S. (1999). Interactional routines and the socialization of interactional style in adult learners of Japanese. *Journal of Pragmatics*, 31, 1493-1512.
- Swain, M. (1985). Communicative competence: Some roles of comprehensible input and comprehensible output in its development. In S. Gass & C. Madden (Eds.), *Input in second language acquisition* (pp. 235-253). Rowley, MA: Newbury House.
- Swain, M. (1993). The output hypothesis: Just speaking and writing aren't enough. *The Canadian Modern Language Review*, 50, 158-164.
- Swain, M. (1995). Three functions of output in second language learning. In G. Cook & B. Seilhofer (Eds.), *Principles and practice in applied linguistics: Studies in honour of H. G. Widdowson* (pp. 125-144). Oxford: Oxford University Press.
- Swain, M. (1998). Focus on form through conscious reflection. In C. Doughty & J. Williams (Eds.), *Focus on form in classroom second language acquisition* (pp. 64-81). Cambridge: Cambridge University Press.
- Schmidt, R. (1993). Awareness and second language acquisition. *Annual Review of Applied Linguistics*, 13, 206-226.
- Schmidt, R. (1995). Consciousness and foreign language learning: A tutorial on the role of attention and awareness in learning. In R. Schmidt (Ed.), *Attention and awareness in foreign language learning* (pp. 1-63). Honolulu: University of Hawaii at Manoa.
- Young, R. (1999). Sociolinguistic approaches to sla. *Annual Review of Applied Linguistics*, 19, 105-132.